

イエスは彼らを見つめて言われた。「それでは、こう書いてあるのは、何のことか。

『家を建てる者の捨てた石 / これが隅の親石となった。』その石の上に落ちる者は誰でも打ち砕かれ、その石が落ちて来た者は、押し潰される。」その時、律法学者たちと祭司長たちは、イエスが自分たちに当てつけてこのたとえを話されたと気付いたので、イエスを捕えようとしたが、民衆を恐れた。(ルカ20:17~19)

主イエスにエルサレム神殿内で暴力的に振舞われ、神殿当局はメンツが潰され、議論で抑え込もうとしたが、見事に切り返されてしまった。彼らの怒りは燃え盛り、殺害の意思がますます高まっていった。そのような背景の中で、主イエスは一つの譬えを話された。

ある人がぶどう園を作り、これを農夫たちに貸して、長い旅に出た。収穫の時になったので、ぶどう園の収穫を納めさせるために僕を遣わした。ところが、農夫たちはこの僕を袋叩きにし、何も持たせないで追い返した。そこでまた、主人は別の僕を送ったが、農夫たちはこの僕も袋叩きにし、侮辱して何も持たせないで追い返した。さらに、三人目の僕を送ったが、これにも傷を負わせて放り出した。ぶどう園の主人は、農夫たちが収穫を納めないばかりか、遣わす僕たちを皆、手ひどく追い返してしまったので、「どうしようか」と迷った。そこで、「私の愛する息子を送ろう。この子ならたぶん敬ってくれるだろう」と思い、息子を遣わした。ところが、農夫たちは息子を見て、「これは跡取りだ。殺してしまおう。そうすれば、財産はこちらのものだ」と言って、息子をぶどう園の外に放り出して、殺してしまった。怒ったぶどう園の主人は戻って来て、農夫たちを殺し、ぶどう園を「他の人たち」に与えた。この譬えを聞いた民衆は「そんなことがあってはなりません」と言った。「他の人たち」とはエルサレムを占領したローマを指しているのではないか。主イエスは、譬えの意味を悟らない民衆を見つめて、「それでは、こう書いてあるのは、何のことか。『家を建てる者の捨てた石 / これが隅の親石となった』」と続けられた。この譬えは主イエスご自身が語られたものではなく、主イエスの十字架と復活を体験した事後預言として書かれている。ぶどう園の主人は神で、ぶどう園は神が与えた豊かなイスラエルで、農夫はユダヤ人である。神はイスラエルの国を貸し与え、ユダヤ人を祝福の下に置いた。神の祝福に対し、僕・預言者を遣わし、神に感謝の信仰を捧げて生きるように諭した。しかし、ユダヤ人は預言者の言葉を聞かず、傷つけ、放り出し続けた。神は独り子イエスなら、敬ってくれるだろうと遣わしたが、十字架で殺し、捨て去った。宗教を支配する権限を持つ神殿当局者たちは役立たずの石として主イエスを捨て去り、十字架で殺した。ところが、殺された主イエスは復活し、主イエスを親石としたキリストの教会という新しい建物が建った。著者ルカは、主イエスの十字架の死と復活による教会の設立を、この譬えで語っている。そして、語られた状況から、主イエス殺害を目論んでいる神殿当局者たちは自分たちの殺意を当てつけた譬えであると気付いたので、捕えようとしたが、主イエスを尊敬し、賛同する民衆を恐れ、手出しできないでいたと書き加えている。更に、「その石の上に落ちる者は打ち砕かれ、その石が落ちて来た者は押し潰される」と言われた。不信と虚栄のエルサレムは崩壊しても、隅の親石となって建ったキリストの教会は厳然と建ち続けると、全てに勝利するキリスト告白を言い表している。